



# 親子ひろしま訪問団

## 2015年訪問の記録

平成27年（2015年）8月5日～7日



神奈川県秦野市

## 目 次

|                             |                    |    |
|-----------------------------|--------------------|----|
| は し が き                     | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1  |
| 1 訪問の概要                     | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3  |
| 2 訪問団員(参加者)の声               | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 14 |
| 3 団員名簿                      | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 20 |
| 4 訪問団規約                     | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 21 |
| 5 資 料                       |                    |    |
| (1) 秦野市の市民憲章・平和都市宣言・平和の日制定文 | ・・・・・・・・           | 22 |
| (2) 広島市平和宣言                 | ・・・・・・・・           | 23 |
| (3) こども代表「平和への誓い」           | ・・・・・・・・           | 26 |
| (4) 広島平和記念公園・周辺ガイドマップ       | ・・・・・・・・           | 28 |

### ◆訪問団の主なスケジュール

| 日 時                     | 項 目            | 主 な 内 容  |
|-------------------------|----------------|--|
| 7月22日(水)<br>午前11時～11時半  | 結団式<br>副市長表敬訪問 | 市長メッセージ・千羽鶴の受け渡し<br>場所：秦野市役所議会第1会議室  |
| 8月5日(水)<br>}<br>8月7日(金) | 広島訪問           | ① 原爆の子の像への千羽鶴の奉納<br>② 広島平和記念資料館見学<br>③ 平和記念式典 参列<br>④ 被爆体験聴講<br>⑤ 平和記念公園内碑めぐり<br>⑥ とうろう流しの参加<br>⑦ 宮島見学 |
| 8月14日(金)<br>午前9時半～10時   | 報告会            | 副市長への訪問団事業の報告<br>場所：秦野市役所議会第1会議室   |

# はしがき

広島・長崎で原爆が投下され、多くの尊い命が奪われてから、70年が経ちました。今でも原爆の後遺症や心の傷で苦しむ方がたくさんいる一方で、復興の努力の中、平和を訴えてきた戦争体験者は減少の一途をたどり、悲惨な記憶の風化が進行しつつあります。また、現代社会の中でも、いじめや虐待、殺人により尊い命が奪われるといった悲しい報道が毎日のように流れ、世界にはいまだ紛争が絶えず、私たちが希求する平和な社会と言える状況にはないように思われます。

戦後50年を契機に始まったこの「親子ひろしま訪問団」は、今年で21回を迎えました。昨年までで、194人の親子が広島を訪問してきました。今年の広島は、3日間とも晴の日が続き、とても暑く蝉がにぎやかに鳴いていました。70年前のこの日、この場所で、原爆が一瞬にして多くの人々の生活とその尊い命を奪ったことを思うと、言葉もありません。

戦争を起こしたのも人間、傷つき立ち上がって生きるのも人間。「人が人を傷つける」という出来事がたびたび報道されている昨今、訪問団員10名にとって、原爆ドームや平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列、被爆体験談の聴講などの経験は、改めて平和であることや命の重みを考える大変良い機会となったと思います。

秦野市では、核兵器廃絶・非核三原則の堅持、恒久平和を柱とした「平和都市宣言」を定め、また、広島・長崎両市が主導する「日本非核宣言自治体協議会」や「平和首長会議」に加盟し、平和への思いを発信しています。

平成20年6月には、市民一人ひとりが改めて平和の大切さや命の尊さを考える機会として、8月15日を「平和の日」と制定しました。毎年、「平和の日」を絡めた日程で、市民が主体となった様々な平和事業を展開しています。

また、平成21年8月には、市役所に「平和の灯モニュメント」を市内事業所の協力を得て、自治体としては全国で14ヶ所目、神奈川県内では初めて設置しました。このモニュメントの種火は、「親子ひろしま訪問団」が広島平和記念公園から採火し持ち帰った炎を、「平和のシンボル」としてともし続けています。

今年、訪問団が広島に届けた千羽鶴はおよそ1万8千羽に上りました。一羽一羽、平和への思いを胸に丁寧に折っていただいた多くの市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。抱えきれないほどの千羽鶴の重さに、鶴を折られた皆様の思いを感じながら、心を込めて鶴を捧げました。

平和記念式典の参列や被爆体験談の聴講などの貴重な経験を含め、被爆地・広島で  
聞き学んだことを、団員一人ひとりが心に刻み込み、その思いを多くの人々に伝え、ま  
た次代へと語り継いでくれることを心より願います。

秦野市くらし安心部市民自治振興課

# 1 訪問の概要

## (1) 訪問1日目・8月5日(水)

- 7:50 集合(小田原駅)
- 8:09 小田原発
- 11:42 広島着
- 14:00 広島平和記念公園到着
- 千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納
- 15:00 広島平和記念資料館見学



「原爆の子の像」の前で千羽鶴とともに

## 原爆の子の像

この像のモデル<sup>ささきさだこ</sup>佐々木禎子さんは、2歳の時に<sup>ばくしんち</sup>爆心地から1.7kmの自宅で被爆した。足が速く、とても元気な子だったが、小学6年生の時に<sup>げんぱく</sup>原爆症<sup>しょう</sup>を<sup>はっしょう</sup>発症した。入院中、<sup>つる</sup>鶴を千羽折れば病気が治ると言われ、信じて折り続けたが、中学校に入学できずに亡くなった。

「原爆の子の像」は禎子さんが通った小学校の同級生たちの呼び掛けにより、全国の学校や外国からの支援により建てられた。

原子力の研究でノーベル物理学賞を受賞した<sup>ゆかわひでき</sup>湯川秀樹博士は、この子供たちの気持ちに感動し、博士の筆による「千羽鶴」、「地に空に平和」の文字が彫られた<sup>かね</sup>鐘<sup>きぞう</sup>を寄贈した。その鐘の下に金色の折り鶴がつるされ、<sup>ふうりん</sup>風鈴式に音が出るようになっている。この鐘と金色の折り鶴は平成15年に<sup>ふくせい</sup>複製されたもので、オリジナルは広島平和記念資料館に展示されている。

訪問団は、広島到着後、市民から<sup>たく</sup>託された1万8



平和な未来への夢を託す少女の像



同年代の禎子さんを思い、鐘を鳴らす

千羽の千羽鶴を手を広島平和記念公園へ向かい、原爆の子の像に<sup>ささ</sup>捧げた。平和記念公園には世界中から大勢の人々が集まり、原爆の子の像にもたくさんの千羽鶴が<sup>ほうのう</sup>奉納されていた。

## 平和記念公園

この地域は、元々は広島でも有数の<sup>はんかがい</sup>繁華街だった。しかし、爆心地に近かったため、原子爆弾投下により<sup>かいめつ</sup>壊滅した。

その後、1954（昭和29）年に平和を祈念し、建築家の<sup>たんげんぞう</sup>丹下健三氏の手により公園として生まれ変わった。

園内には平和記念資料館をはじめ、<sup>げんぱくしぼつしゃいれいひ</sup>原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、平和の灯、平和の鐘など多くの碑やモニュメントなどが設置されている。

毎年、原子爆弾が投下された8月6日には「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（平和記念式典）」が開催され、夜には<sup>もとやすがわ</sup>元安川をはじめ市内6つの川で犠牲者<sup>ぎせいしゃ</sup>を<sup>いれい</sup>慰霊する「とうろう流し」が行われている。



翌日の式典準備が行われる記念公園

## 平和記念資料館

平和記念資料館は、被爆の<sup>じっそう</sup>実相を伝え、核兵器のない平和な世界の<sup>こうけん</sup>実現に貢献するため設置された。本館と東館の2つの建物からなり、今年度は残念ながら東館は改修のため見学することはできませんでしたが、本館では、被爆者の<sup>いひん</sup>遺品や高熱で融けた<sup>かわら</sup>瓦等の被爆資料を展示している。

また、核実験への抗議文を展示しており、その数は600通以上、人類最初の被爆地として、強く、地道に訴えを発し続けている。

本やテレビで見るのとは違った生々しい展示は、静かに、そして強く、訪問団員の心に戦争や原爆の悲惨さを訴えかけた。



真剣に展示資料に見入る団員

## (2) 訪問2日目・8月6日(木)

- 8:00 原爆死没者慰霊式並びに  
平和祈念式参列
- 9:30 被爆者体験談の聴講
- 14:30 平和記念公園内の碑めぐり
- 20:00 とうろう流し参加



それぞれの平和への思いをとうろうに込めた

### 原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

毎年8月6日に、被爆者、政府・自治体関係者など、国内外から多くの人々が参列し、原爆死没者の冥福と恒久の平和を願って行われる。

午前8時ちょうどに開会し、広島市長と遺族代表が、原爆死没者名簿を原爆慰霊碑に納めた。



子ども代表の「平和への誓い」

この一年間に新たに亡くなったり、死亡が確認されたりした被爆者は5,359人。名簿搭載者の総数は29万7,684人に、名簿の数は109冊となった。

原爆が投下された午前8時15分、全員で黙とうし、死没者への心からの哀悼と不戦の誓いを新たにした。

黙とう後、松井一實広島市長から、世界に向けて市民の平和への願いを込めた「平和宣言」が発信された。広島市は、1998(平成10)年から核兵器保有国の駐日大使の式典への参列を求める取組みを開始し、今年、昨年11月に就任したアメリカのキャロライン・ケネディ駐日大使・ローズ・ガテマラー国務次官を含む68か国と欧州連合代表らが参列した。

松井広島市長は平和宣言で、世界の指導者へ向けてのメッセージとして「人類愛」と「寛容」を挙げ、顔を合わせた対話、そうして得られる信頼を基礎に取り組み重要性を示した。

訪問団は、初めて参列する式典の、テレビで見るのとは異なる厳粛な雰囲気

緊張しながら、参列する多くの被爆者、及びご遺族とともに黙とうを捧げた。子どもたちは、広島市長や内閣総理大臣のあいさつ、同年代であることも代表の誓いの言葉に真剣な表情で耳を傾け、平和への思いとこの貴重な経験を、心に刻み込んだ。

## 原爆死没者慰霊碑

平和記念公園の中央に位置する、古墳時代の家形埴輪いえがたはにわに似たデザインの碑で、中央の石室せきしつには原爆死没者名簿が納められている。碑の正面には、「安らかに眠ってくださいあやま ちは繰り返しませぬから」という言葉が刻み込まれている。

この静かで短い言葉には、原爆死没者への哀悼と、戦争という過ちを二度と繰り返さないという平和への願いと誓いが込められており、見る者の心を打つ。

原爆慰霊碑、祈りの泉、嵐の中の母子像、資料館、平和の灯は、一直線で結ばれるように設計されている。



直線上に原爆ドームが見える設計になっている

## 平和の灯

建立こんりゆうは、1964（昭和39）年8月1日。当時、東京大学の教授だった丹下健三氏の設計により、全国12宗派から寄せられた「宗教の火」や溶鉱炉ようこうろなどの全国の工場地帯から届けられた「産業の火」が、1945（昭和20）年8月6日生まれの7人の女性により点火された。

建立の目的は「水を求めてやまなかつた犠牲者なぐさを慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため」。この火は、点火された日以来ずっと燃え続けており、「核兵器が地球から姿を消す日まで燃やし続けよう」という反核の象徴はんかく しやうちようである。



秦野市にも分けられた平和の灯

秦野市では、平成21年8月6日に、平和の象徴として、市役所本庁舎玄関横に「平和の灯モニュメント」を設置したが、親子ひろしま訪問団がこの「平和の灯」から採火した火を持ち帰り、ともし続けている。



## 被爆体験談聴講

平和記念式典参列後、講師の増岡清七さんより被爆体験のお話を伺った。増岡さんは、被爆当時の状況やその時の恐怖について子どもたちにも分かるよう丁寧に話し、その言葉は、戦争そして原爆の恐ろしさ、平和の大切さを訪問団に静かにしかし強く訴えかけた。

### 【被爆体験談（増岡清七さんのお話から抜粋）】

1945(昭和20)年8月6日は、建物疎開作業のため、約8,300人の中学生が作業をしていた。学徒動員令により当時の中学生は、夏休みもなく工場等で作業や建物疎開に従事することになっていた。

建物疎開とは、空襲による火災の延焼を防ぎ、住民の避難場所のために建物を壊し、空き地をつくることで、当時、県庁や市庁舎周辺は建物疎開で空き地となっていた。当日、増岡さんら3年生の半数の70人は、爆心地から約1kmの場所で、引率の先生の話聞いていた。

午前8時15分、突然、左からの風で押し上げられ、地面にたたきつけられた。そのまま意識を失い、原爆特有の「ピカ(光)ドン(音)・きのこ雲」の記憶はなかった。

意識が戻り、見回すと夜のように真っ暗な中、空から火が降って見え、悲惨な状況が広がっていた。原爆が落ちたと知ったのは後のことだった。

生き残った学友たちを見ると、みんな皮膚が垂れ下がり、一見誰だかわからないほどの形相だった。皮膚が熱で剥がれ、爪のところで止まり、垂れ下がっていた。

増岡さんも左顔面や腕など皮膚が垂れ下がっていた。何が起こったのか、どこが安全なのかもわからないまま、爆心地から市外へ必死で逃げた。炎に焼かれ、死に逝く人たちを見ながら、とにかく「死にたくない」一心で逃げた。「生きたい」ではなく「死にたくない」という気持ちで。「生

#### 増岡清七さん(広島市在住)



爆心地から約1kmで被爆。当時中学3年生。

戦後、高校で教鞭をとっていたが、退職後、「被爆語り部」として、

反核・平和を訴え続けている。

現在、「広島県高等学校被爆教職員の手帳」会長。

きたい」には希望があるが、「死にたくない」は絶望の中で感じる事。広島市の街が炎で燃え上がっている中「死にたくない」とたどり着いた防空壕には、人が重なり合い、あふれていた。

ひんし  
瀕死の状態、水や家族を求めていた。  
こかげ  
木陰でそのまま眠ってしまったところを  
翌日、救助隊の馬車で市外の民家の座敷に  
運ばれた。すでに多くの方が丸太のように  
横たわっていた。この時、初めて汚い布で  
かんぶ ふ  
患部を拭いたが、ちりょう  
治療はされなかった。



翌日、汚い茶碗にお粥が1杯置かれたが、  
うみ  
皮膚の膿で、左目と口が開かず、食べるのに困った。皮膚が垂れ下がった左顔面や腕に、太陽の光が当たると、針でチクチク刺すような痛みが続いた。数日後、行方を必死で探してくれた父親と再会し、にぐるま  
しんせき  
荷車に載せられ親戚宅に行った。

増岡さんの話に、真剣にメモを取る団員たち

その時は、増岡さんの体をきづか  
げんかい  
気遣って教えられなかったが、自宅は全壊、母親は即死していたと、後に父親から伝えられた。りょうよう  
療養のための旅行で留守にして死を免れた父親も翌年、増岡さんが15歳のときに亡くなった。恐らく、増岡さんの行方を探すために原爆投下直後の広島市の街を歩いて回る中で、ざんりゅうほうしゃのう  
だび  
残留放射能を浴びてしまったためと思われる（入市被爆）。かそう  
火葬する設備がなく、自分自身で荼毘に付した。すで  
とっこうたいいん  
既に兄は特攻隊員として沖縄で戦死しており、家族は姉と2人きりになってしまった。

学友たちも多くが原爆により亡くなったが、そのうちの一人の遺品が、平和記念資料館に展示されている。

## 原爆ドーム

後に「原爆ドーム」と呼ばれるこの建物は、1915（大正4）年に広島県の物産品のはんばいそくしん  
きよてん  
販売促進を図る拠点として建設され、建設当時は「広島県物産陳列館」という名称だった。その後、「広島県産業奨励館」と改称されたが、県下の物産品の展示・販売を行うほか、博物館、美術館としての役割も担っていた。

しかし、戦争が激しくなった1944（昭和19）年3月、産業奨励館としての業務が廃止され、ないむしょう  
内務省中国・四国土木出張所や広島県地方材木・日本材木広

島支社など統制会社とうせいの事務所として使用されていた。

設計者はチェコの建築家ヤン・レツル氏で、構造は一部鉄骨を使用したレンガ造り、石材とモルタルで外装が施ほどこされていた。全体は3階建てで、正面中央部分に5階建ての階段室、その上に銅板だえんけいの楕円形ドームがのっていた。

爆心地から約200mの場所に位置し、原爆投下により爆風と熱線を浴びて大破し、天井から火を吹いて全焼した。爆風がほとんど垂直すいちよくに働いたため、本館中心部は奇跡的に倒壊を逃れたものの、館内にいたすべての人々は即死している。



平和、そして核兵器廃絶の象徴である原爆ドーム

鉄骨部分がむき出しの残骸ざんがいと化し、いつからともなく「原爆ドーム」と呼ばれ、1996(平成8)年に世界遺産へ登録された。

静かに佇たたずむ原爆ドームの姿は、平和記念資料館で原爆に関する様々な資料を見た訪問団に、同じような悲劇を繰り返してはいけないと改めて強く感じさせた。

## 平和記念公園内の碑めぐり

平和記念公園及びその周辺には、原爆犠牲者の慰霊碑など、50を超える原爆関連の記念碑や記念建造物がある。訪問団はボランティアガイドの案内を受けながら平和記念公園内の碑めぐりを行った。

## 被爆したアオギリ

爆心地から約1.5キロ離れた東白島町ひがしはくしまちょうにあった当時の広島通信局ていしんきょくの中庭に、3本のアオギリの木が植えられていた。

原爆の投下によって、熱線と爆風をまともに受けた3本のアオギリは、枝葉が全て無くなり、爆心地側の幹の半分が焼け焦げた。

しかし、枯れ木同然だったアオギリは、翌年の春、奇跡的に新芽を出し、その姿は、原爆投下と敗戦によって



ひへい  
疲弊した人々の心に、生きる勇気と希望を与えた。



1973（昭和48）年、当時の中国郵政局（かつての通信局）の建て替えに伴い、平和公園内の現在の場所に移植された。3本のうち1本は枯れてしまったが、この被爆したアオギリの種子は国内外に贈られ、「被爆アオギリ2世」として大切に育てられている。

その姿で原爆の被害を訴え続けるアオギリ

## 峠三吉詩碑

とうげさんきち  
峠三吉さんは、爆心地から約3キロ離れた自宅<sup>はな</sup>で被爆した。その体験を文学の活動を通して発表し、原爆反対、平和擁護<sup>ようご</sup>の作品を数多く残した。その代表作である「原爆詩集」は、世界的な反響<sup>はんきょう</sup>を与えた。

平和記念公園内の碑文には、次のような詩が刻まれている。

「ちちをかえせ ははをかえせ  
としよりをかえせ こどもをかえせ  
わたしをかえせ  
わたしにつながるにんげんをかえせ  
にんげんの にんげんのよの  
あるかぎり  
くずれぬへいわを へいわをかえせ  
峠 三吉」



峠三吉詩碑にもたくさんの花が捧げられている

## 島病院

1933年に開業。原子爆弾の投下により壊滅したが、1948年に同所に再建された。

広島市への原爆投下における爆心地として、各時代の資料に「島病院」「島外科」と記載されるが、これらはすべて現在の島外科内科にあたる。

1945年8月6日に原子爆弾・リトルボーイが投下された際、病院の上空でさく

裂したことが調査により判明したため、同所が爆心地とされている。

## 韓国人原爆犠牲者慰霊碑

終戦時、日本には約300万人の朝鮮人がおり、数万人が広島市内で被爆したといわれている。



多くの花が手向けられた慰霊碑

「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事にならって、亀を形どった台座の上に碑柱が建ち、その上に二つの竜を刻んだ冠が載せられている。

碑は、当初、軍人であった朝鮮王家の一族李殿下が司令部への出勤途中に原爆投下に遭い、その後発見された場所付近ということから、本川橋西詰めに建立された。

その後、各方面からの強い要望により、1999（平成11）年7月に平和記念公園内に移設された。慰霊碑の石は、国に帰れなかった人々への思いから、ふるさと韓国の石が使われている。

## 原爆供養塔

爆心地に近いこの付近には、被爆後、遺体が散乱し、また、川から引き上げられたものなど、無数の遺体が運ばれ、茶毘にふされた。

1946（昭和21）年、市民からの寄付により、仮供養塔、仮納骨堂、礼拝堂が建立され、その後、1955

（昭和30）年に、広島市が中心となり老朽化した納骨堂を改築し、各所に散在していた引き取り手のない遺骨もここに集め納めた。身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨約7万柱が納められている。

毎年8月6日には、さまざまな宗教・宗派合同の供養慰霊祭が営まれている。



犠牲となられた方々の供養塔

## 平和の鐘

核兵器と戦争の無い平和な世界の達成を目指し、その精神文化運動のシンボルとして建立された。この鐘の音を広島から世界の隅々まで響き渡らせ、全人類の一人ひとりの心にしみわたらせることを願い、訪問者が自由に鐘を鳴らせるようになっている。

鐘は、梵鐘ぼんしょうの分野で重要無形文化財保持者じゅうようむけいぶんかざいほじしゃ（人間国宝）である香取正彦かとりまさひこが制作し、表面には「世界は一つ」を象徴する国境の無い世界地図が浮き彫りにされている。

撞座つきざは、原水爆禁止の思いを込めて原子力のマークがデザインされており、鐘楼しょうろうの周囲の池には大賀ハスが植えられている。

被爆当時、ハスの葉で傷を覆い、火傷の痛みをしのいだという被爆者の霊を慰めたものである。



平和な世界を願い、平和の鐘をつく



## とうろう流し

原爆は一瞬にして多くの命を奪った。そして、即死を免れてもひどい火傷を負った人たちが大勢いた。その人たちの多くは、その熱さと痛みになんて耐えかねて近くの川に次々に身を投げ、川面には遺体が浮き、川底にも遺体が沈んでいたという。

戦後、駅前を中心にヤミ市がにぎわい、中心部にバラック建ての商店が建ち始めた昭和23～4年ごろ、親族や知人を原爆で失った遺族や市民たちが追善ついでんと供養のため、手作りの灯籠とうろうを川に流したのが、「とうろう流し」の始まりと言われている。

灯籠には、亡くなった方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的だが、最近では「平和への思い」が書かれる光景も目立つ。長い歴史を持つ「とうろう流し」は、慰霊とピースメッセージの両方の意味を持つようになった。毎年、8月6日の夕刻から元安橋もとやすばしの上流から流される。

広島訪問2日目を終えた訪問団10人は、平



とうろうに書くメッセージを真剣に考える団員



和施設見学や平和記念式典出席を経て感じたそれぞれの平和への思いを乗せて、灯籠を流した。

### (3) 訪問3日目・8月7日(金)

- 9 : 3 0 広島駅発
- 1 0 : 4 0 世界遺産 いつくしまじんじゃ 「厳島神社」着
- 1 6 : 5 2 広島駅発
- 2 0 : 3 6 小田原駅着・解散



世界遺産・宮島「厳島神社」を見学



## 2 訪問団員（参加者）の声

### (1) 訪問前の感想

●言葉では伝えられない、又、感じられない事を直接広島に訪問して、子どもも私も直に感じたいと思っています。また、広島に訪問するのは2回目で原爆ドームや資料館は訪問していますが、式典に参列する機会はなかなかあるものではありません。安保関連法案についてももしっかり考える時間になればと思います。特に子どもが何かを感じ成長してくれることを期待して参加したいと思っています。

●戦争はたくさんの人の命をうばう悪いことだと思う。広島に行って戦争がどんな状況だったのかを知って平和について考えたい。

●戦争を知らない私達です。目で見て体験者の方々の話を聞き、今の平和があることのありがたさや、同じ事を繰り返さずいつまでも平和な日本であり続けてほしいと願い合掌したいと思います。

●「折り鶴の少女」という本を読んで佐々木禎子さんのことを知りました。原爆の子の像に千羽鶴をささげる時に、平和を祈ってきたいと思っています。



佐々木禎子さんが折った千羽鶴

●戦争の悲惨さについてや原爆の恐ろしさについて、テレビや映画や本などでは伝わらない事を今回の「親子ひろしま訪問団」で学んで来たいと思います。特に平和祈念式典への参加、被爆体験談は貴重な経験になると期待しています。

●教科書ではわからない事を行って、見て、聞いて、自分で感じてほしいと思ったからです。これからの日本を作っていく子供たちに伝えてほしかった。今の国が向かおうとしている方向がとても気になり、自分で考える力をつけてほしかったです。

●「はだしのゲン」をよんで、ゲンのお母さんやお父さん、みんながしんでいくばめ



んをみて、わたしは戦争に、病気をもっている人も、若い人も、ぐあいや、たいち  
ようがわるい人も、なぜ、いかなければならなかったのかをしりたいです。

- 今回参加しようと思ったのは姉が小学校の時に参加させてもらい、良かったと言っ  
ていたので、参加希望しました。広島は初めてですが、色々なことを学べたらと思  
っています。小学校最後の良い思い出になれば良いと思っています。よろしくお願  
いします。



市長表敬訪問(結団式)にて、古谷市長、西幼稚園の皆さんと記念撮影

## (2) 訪問後の感想

- これからお父さんやおじいさんになったときまで広島であったことを伝えたいです。
- 70年という節目の年に親子ですばらしい仲間が広島に訪問でき、貴重な体験をさせて頂いたこと感謝しております。平和の大切さ、教育の難しさ、子供達の成長など、いろいろ感じた三日間でした。日本の平和を維持していく、世界をより平和にしていく、世界中の子供たちが笑顔で過ごせるようにしていくために私達には何が出来るだろうかと考えたとき、一人一人の力は微力で何もできないのではとってしまうこともあります。しかし、今回の訪問で感じたこと、聞いたことを一人でも多くの人に伝えることで伝えられた人には平和を考えてもらえる。少しずつですがその輪を広げていけたらと思います。二度と広島や長崎のようなことは起こってはならないですから。

- ぼくは資料館や原爆ドームなどを見てとても心が悲しくなりました。今までにテレビや本で見ていた印象とは全くちがうもののように感じました。平和になるため、戦争をする教えをしていたことにおどろきました。そして、一番おどろいたのは、原爆が落とされて焼け野原になった広島が普通の町なみにもどったことにおどろき、感動しました。広島の人たちが一生懸命がんばったからだと思いました。



静かに平和を訴え続ける原爆ドーム

- 私は二人の子供を産みました。大切な大切な宝物です。大切な命です。愛しい命です。だから我が子を必死に抱えるお母さんの気持ちがわかります。でも助けられなかった無念さが伝わりました。多くの命を、町を一瞬にして火の海にした戦争を、二度と繰り返してはいけないと思います。犠牲となった方々のためにも私達は平和の祈りを忘れてはいけないと思います。未来の子供にも戦争の恐ろしさ、悲しみを語りついで行きたいと思いました。
- 想像以上に戦争や原爆がひどくて、ぜったいに戦争をしてはいけないと思いました。増岡さんの話や平和祈念式典に出られて良かったです。すごく貴重な体験

でした。

●戦後70年の今年に、平和祈念式典に参列させていただき平和への思いがさらに強くなりました。私自身は高校生、20代の頃、そして今回と3度目の広島ですが、結婚して子を持つことで感じ方も変わってきたように思います。今回この「親子ひろしま訪問団」に参加させていただき、ほんとうによかったと思っています。

●以前広島を訪れたのは、大学生の時。思い立って出かけたので何の準備もせず見学しておわりました。今回、こういうチャンスをいただいて、準備をして、行けた事はとても有意義な時間となりました。日本人ならば、一度は広島・長崎を訪れなければと思っているのですが、娘をつれて行けた事はありませんでした。今回行って見て、娘も思う事があったようです。こう考えれるようになったのは、高校の時に九州・沖縄の修学旅行で戦争のつめあとを見て学んで来たからだと思っています。せつかくこのような良い企画をしているのであれば、(小学生は京都、)

中学生は広島に修学旅行に行った方が良くはないかと思いました。以前より、反戦の事でお手伝いはしてきましたが、これからも平和を大切にできる国であるように、政治に関心をもっていようと思いました。今回のメンバーともすぐに



真剣なまなざしで式典に参加する団員

うちとけて、同年代の子とも仲良くなれたようで本当に行って良かったと思いました。

●初めて広島にいて、さいしょは、昔ここが戦争で一しゅんにして町が壊れたなんて信じられないくらい、きれいな町でした。でも、しりょう館にいて、いろんな品を見て、わたしは戦争はぜったいにやってはいけないものだと思います。ほかの学校のお友だちとなかよくなれて、うれしかったです。

## ～報告会で八木副市長へ訪問の報告～

秦野市では、市民一人ひとりが改めて平和や命の大切さを考えるため、8月15日を「秦野市平和の日」と決めました。その「平和の日」を迎えるにあたり、前日の8月14日（金）、市役所にて八木優一副市長に広島訪問の報告を行いました。

始めに、岩田祥和団長より7月22日（水）に実施した結団式から、8月5日（水）～7日（金）の3日間の広島訪問までの訪問団事業の報告を行った後、訪問団員の子どもたち5人が一人ずつ、8月6日の平和記念式典に参列した思い出や、平和記念資料館の生々しい展示資料を見て感じたこと、被爆体験談の講師のお話で印象に残っていることなど、広島訪問の感想を発表しました。



被爆地・広島で見て、感じたことを、一人ひとり自分の言葉で報告

「戦争が正しいと教育をしていることにとても驚いた」「焼け野原になった普通の町なみにもどった」「普通の生活が一瞬でなくなるのは恐ろしく思う」「戦争や原爆の怖さ、平和の大切さを改めて知った」「どうしたら世界を平和にできるのかを勉強したい」といった子どもたちの報告を受け、八木副市長は、世界で70年間戦争をしていないのは日本だけです。100年も200年も平和を維持していくことのために、皆さんの努力によって、今回、見聞きし、感じたことを伝えて行っていただきたい。



八木副市長への報告会の様子

### 3 団員名簿

| 保護者氏名              | 子 供 氏 名                    | 役 割 |
|--------------------|----------------------------|-----|
| いわた よしかず<br>岩田 祥和  | いわた こうすけ<br>岩田 康佑<br>西小5年  | 団 長 |
| こいずみ よしこ<br>小泉 由子  | こいずみ あおい<br>小泉 藍生<br>南小5年  | 副団長 |
| さゆだ きょうこ<br>左右田 恭子 | さゆだ ともや<br>左右田 朋弥<br>末広小5年 | 記 録 |
| いしげ かなえ<br>石下 かなえ  | いしげ あいり<br>石下 愛梨<br>西小4年   | 会 計 |
| たに よしこ<br>谷 禎子     | たに ゆきな<br>谷 幸奈<br>上小6年     | 監 事 |

## 4 訪問団規約

(名称)

第1条 この訪問団の名称は、親子ひろしま訪問団（以下「訪問団」という。）という。

(目的)

第2条 訪問団は、原爆被災地である広島を訪問し、団員自らがその目で戦争の悲惨さを見ることにより、平和の尊さを学ぶことを目的とする。

(事業)

第3条 訪問団は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 原爆ドーム等を視察することにより、原子爆弾を始めとした戦争兵器使用による殺りくの悲惨さを学ぶ。
- (2) 平和祈念式典に参加することにより、無意味な戦争の否定を決意するとともに、恒久の平和の追求を決意する。
- (3) 原子爆弾が投下され、壊滅的な被害を被りながらも希望を持って築きあげられた今日の広島市等を視察することにより、平和の尊さ及び不屈の努力の成果を学ぶ。
- (4) その他目的を達成するために必要な事業。

(組織)

第4条 訪問団は、公募等の方法による希望者から選ばれ構成される親子5組10人により組織する。

- 2 訪問団に、団長、副団長、記録、会計及び監事を置き、それぞれ訪問団員の互選により定めるものとする。
- 3 団長は、訪問団の事業を総理し、訪問団を代表するものとする。
- 4 副団長は、団長を補佐し、団長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行するものとする。
- 5 記録は、訪問団の事業を記録するものとする。
- 6 会計は、訪問団の経理を処理するものとする。
- 7 監事は、会計を監査するものとする。
- 8 訪問団の事務局は、秦野市くらし安心部市民自治振興課に置く。

(解散)

第5条 訪問団は、第2条の目的を達成したときに解散するものとする。

(経費)

第6条 訪問団の経費は、訪問団員の自己負担金、市からの補助金、その他の収入をもって充てる。

(その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、訪問団の運営に関して必要な事項は、団長が定めるものとする。

附 則

この規約は、平成7年6月15日から施行する。

## 5 資料

### (1) 秦野市の市民憲章・平和都市宣言・平和の日制定文

#### ◎秦野市民憲章

わたくしたち秦野市民は、丹沢の美しい自然のもとで、このまちの限らない発展に願いをこめ、ここに市民憲章を定めます。

- 1 平和を愛する市民のまち、それは私たちの誇りです。
- 1 きれいな水とすがすがしい空気、それは私たちのいのちです。
- 1 健康ではたらき若さあふれるまち、それは私たちのねがいです。
- 1 市民のための豊かな文化、それは私たちののぞみです。
- 1 みんなの発言で住みよいまちを、それは私たちのちかいです。

この市民憲章は、秦野市の発展を願って昭和44年10月1日に制定したものです。

#### ◎秦野市平和都市宣言

私たち秦野市民は、平和への限らない願いをこめて「平和を愛する市民のまち、それは私たちの誇りです。」と市民憲章に定めた。

私たちの責務は、この精神にのっとり永遠の平和を希求し、愛する郷土を守り次代へ引き継いでいくことである。

しかし、武力紛争は世界各地で絶え間なく続き、際限のない軍備拡大と核兵器の増強は、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

世界の恒久平和は、すべての人々の切なる願いである。私たち秦野市民は、国際平和年に当たり非核三原則を堅持するとともに、永久の平和とあらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を願い、ここに「平和都市」を宣言する。

昭和61年3月27日制定

#### ◎秦野市平和の日制定について

私たち秦野市民は、永遠の平和を希求し、愛する郷土を守り引き継いでいく精神をうたった秦野市民憲章と秦野市平和都市宣言の理念の下に、一人ひとりがそれぞれの信条や立場を越えて、平和についてともに考え、語り合うことにより、平和への願いを未来に向け継承していくため、ここに「秦野市平和の日」を制定します。

秦野市平和の日 毎年8月15日

平成20年6月9日制定

## (2) 広島市平和宣言

私たちの故郷(ふるさと)には、温かい家族の暮らし、人情あふれる地域の絆、季節を彩る祭り、歴史に育まれた伝統文化や建物、子どもたちが遊ぶ川辺などがありました。1945年8月6日午前8時15分、その全てが一発の原子爆弾で破壊されました。きのこ雲の下には、抱き合う黒焦げの親子、無数の遺体が浮かぶ川、焼け崩れた建物。幾万という人々が炎に焼かれ、その年の暮れまでにかげがえのない14万もの命が奪われ、その中には朝鮮半島や、中国、東南アジアの人々、米軍の捕虜なども含まれていました。

辛うじて生き延びた人々も人生を大きく歪められ、深刻な心身の後遺症や差別・偏見に苦しめられてきました。生きるために盗みと喧嘩を繰り返した子どもたち、幼くして原爆孤児となり今も一人で暮らす男性、被爆が分かり離婚させられた女性など——苦しみは続いたのです。

「広島をまどうてくれ！」これは、故郷(ふるさと)や家族、そして身も心も元通りにしてほしいという被爆者の悲痛な叫びです。

広島県物産陳列館として開館し100年、被爆から70年。歴史の証人として、今も広島を見つめ続ける原爆ドームを前に、皆さんと共に、改めて原爆被害の実相を受け止め、被爆者の思いを噛みしめたいと思います。

しかし、世界には、いまだに1万5千発を超える核兵器が存在し、核保有国等の為政者は、自国中心的な考えに陥ったまま、核による威嚇にこだわる言動を繰り返しています。また、核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになり、テロリストによる使用も懸念されています。



核兵器が存在する限り、いつ誰が被爆者になるか分かりません。ひとたび発生した被害は国境を越え無差別に広がります。世界中の皆さん、被爆者の言葉とヒロシマの心をしっかりと受け止め、自らの問題として真剣に考えてください。

当時16歳の女性は「家族、友人、隣人などの和を膨らませ、大きな和に育てていくことが世界平和につながる。思いやり、やさしさ、連帯。理屈ではなく体で感じなければならぬ。」と訴えます。当時12歳の男性は「戦争は大人も子どもも同じ悲惨を味わう。思いやり、いたわり、他人や自分を愛することが平和の原点だ。」と強調します。

辛く悲しい境遇の中で思い悩み、「憎しみ」や「拒絶」を乗り越え、紡ぎ出した悲痛なメッセージです。その心には、人類の未来を見据えた「人類愛」と「寛容」があります。

人間は、国籍や民族、宗教、言語などの違いを乗り越え、同じ地球に暮らし一度きりの人生を懸命に生きるのです。私たちは「共に生きる」ために、「非人道性の極み」、「絶対悪」である核兵器の廃絶を目指さなければなりません。そのための行動を始めるのは今です。既に若い人々による署名や投稿、行進など様々な取組も始まっています。共に大きなうねりを創りましょう。

被爆70年という節目の今年、被爆者の平均年齢は80歳を超えました。広島市は、被爆の実相を守り、世界中に広め、次世代に伝えるための取組を強化するとともに、加盟都市が6,700を超えた平和首長会議の会長として、2020年までの核兵器廃絶と核兵器禁止条約の交渉開始に向けた世界的な流れを加速させるために、強い決意を持って全力で取り組みます。

今、各国の為政者に求められているのは、「人類愛」と「寛容」を基にした国民の幸福の追求ではないでしょうか。為政者が顔を合わせ、対話を重ねることが核兵器廃絶への第一歩となります。そうして得られる信頼を基礎にした、武力に依存しない幅広い安全保障の仕組みを創り出していかなければなりません。その実現に忍耐強く取り組むこと

が重要であり、日本国憲法の平和主義が示す真の平和への道筋を世界へ広めることが求められます。

来年、日本の伊勢志摩で開催される主要国首脳会議、それに先立つ広島での外相会合は、核兵器廃絶に向けたメッセージを発信する絶好の機会です。オバマ大統領をはじめとする各国の為政者の皆さん、被爆地を訪れて、被爆者の思いを直接聴き、被爆の実相に触れてください。核兵器禁止条約を含む法的枠組みの議論を始めなければならないという確信につながるはずです。

日本政府には、核保有国と非核保有国の橋渡し役として、議論の開始を主導するよう期待するとともに、広島を議論と発信の場とすることを提案します。また、高齢となった被爆者をはじめ、今この時も放射線の影響に苦しんでいる多くの人々の苦悩に寄り添い、支援策を充実すること、とりわけ「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

私たちは、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、被爆者をはじめ先人が、これまで核兵器廃絶と広島の復興に生涯をかけ尽くしてきたことに感謝します。そして、世界の人々に対し、決意を新たに、共に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすよう訴えます。

平成 27 年（2015 年）8 月 6 日

広島市長 松井 一實

### (3) こども代表「平和への誓い」

昨年の8月20日、土砂災害に巻き込まれ、大切な仲間の一人を失いました  
今まで、当たり前のように一緒に過ごしていた仲間が、突然いなくなるという悲しみを  
知りました

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分

照りつける太陽の下、一発の原子爆弾が、建物、自然、そして、たくさんの人々の大切  
な命を奪いました

この日のことを経験していない私たちですが、大切な人を失う悲しみは、想像すること  
ができます

あの日から70年

今の広島は、色とりどりの花が咲き、緑豊かで、みんな笑顔で過ごすことのできる素敵  
な街です

この街で、今、私たちは、平和への思いを感じています

平和を考えるきっかけは、身近なところにあります

平和記念公園で見たたくさんの折り鶴

広島平和記念資料館を訪れて知った原子爆弾による被害の事実

悲しみ、苦しみとともに、平和への強い思いが込められた被爆体験者の話

そして、私たちこども代表による「平和への誓い」

祖父母たちが、この70年間ヒロシマを生き抜いて、私たちに命をつないでくれました

私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちにで  
きることから、「小さな平和」をつくらうとしています

もう一度、身近な友達、世代の違う人々、様々な国や地域に住む人々と、平和（につい  
て共に考えてみませんか

広島に育つ私たちは 事実を被爆者の思いや願いを

過去 現在 未来へと

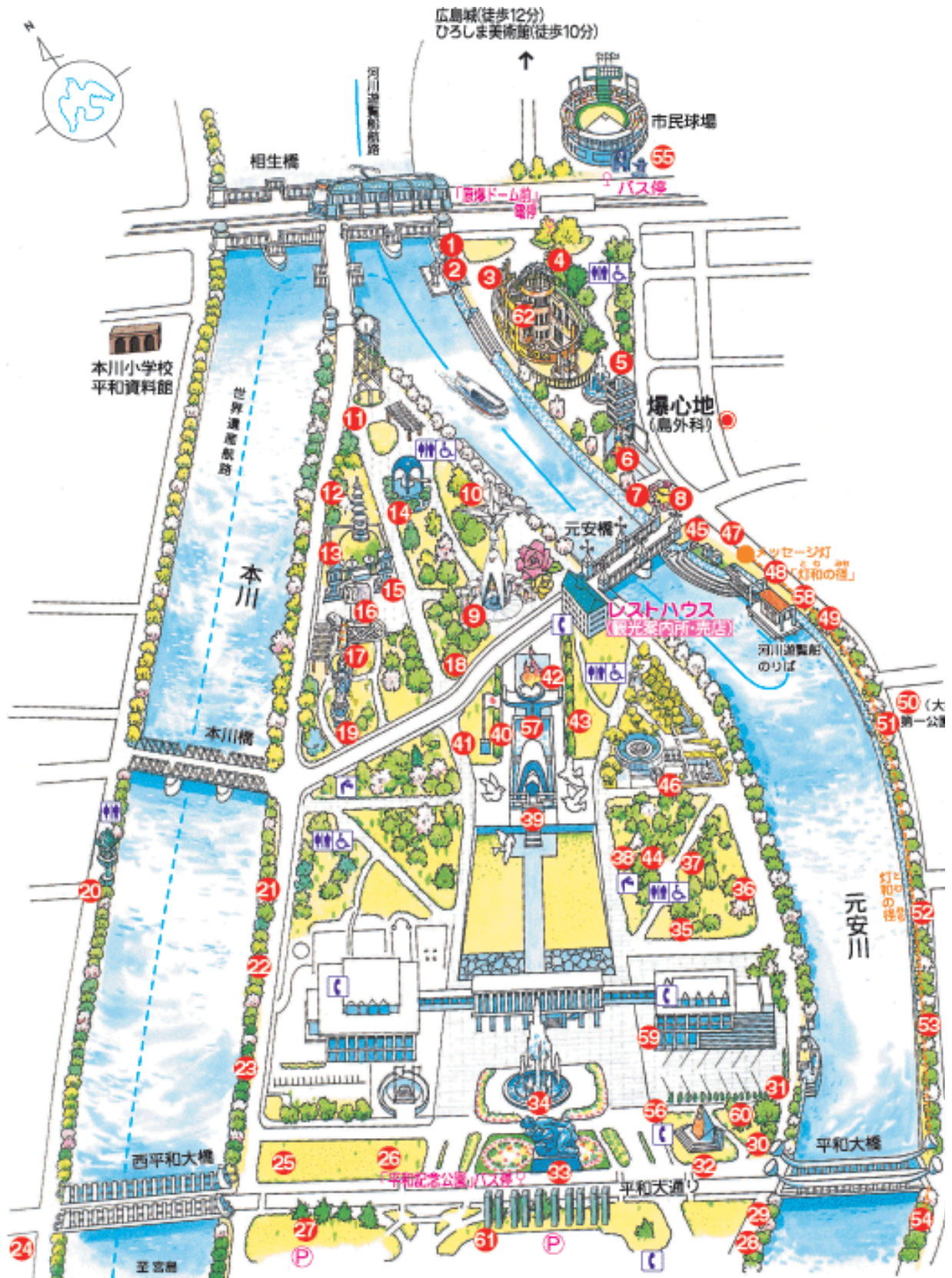
私たちの平和への思いとともにつないでいく一人となることを誓います

平成27年（2015年）8月6日

こども代表 広島市立白島小学校 6年 桑原悠露

広島市立矢野南小学校 6年 細川友花

#### (4) 広島平和記念公園・周辺ガイドマップ



- |                       |                     |                        |
|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 1 鈴木三重吉文学碑            | 2 旧相生橋碑             | 3 中国四国土木出張所職員殉職碑       |
| 4 広島県地方木材統制株式会社慰霊碑    | 5 原民喜詩碑(佐藤春夫の詩碑の記)  | 6 動員学徒慰霊塔              |
| 7 広島市道路元標             | 8 花時計               | 9 原爆の子の像               |
| 10 平和の石塚              | 11 平和の時計塔           | 12 遭難横死者慰霊供養塔          |
| 13 原爆供養塔              | 14 平和の鐘             | 15 平和の石燈               |
| 16 韓国人原爆犠牲者慰霊碑        | 17 被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石)  | 18 平和の泉                |
| 19 平和乃観音像(中島本町町民慰霊碑)  | 20 常夜燈              | 21 義勇隊の碑               |
| 22 広島二中原爆慰霊碑          | 23 広島市商・造船工業学校慰霊碑   | 24 慈母の像                |
| 25 原爆犠牲者国民学校 教師と子どもの碑 | 26 平和の像「若葉」(湯川秀樹歌碑) | 27 友愛碑                 |
| 28 旧天神町南組慰霊碑          | 29 広島市立高女原爆慰霊碑      | 30 マルセル・ジュノー博士記念碑      |
| 31 朝鮮民主主義人民共和国帰国記念時計  | 32 平和の塔             | 33 嵐の中の母子像             |
| 34 祈りの泉               | 35 被爆したアオギリ         | 36 全損保の碑               |
| 37 峠三吉詩碑              | 38 「材木町跡」の碑         | 39 原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑) |
| 40 平和祈念像(草野心平の詩碑)     | 41 菩提樹の碑            | 42 平和の灯                |
| 43 祈りの像               | 44 旧天神町北組慰霊碑        | 45 広島郵便局職員殉難碑          |
| 46 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館   | 47 平和祈念碑            | 48 原爆犠牲建設労働者・職人之碑      |
| 49 原爆犠牲ヒロシマの碑         | 50 石炭関係原爆殉難者慰霊碑     | 51 広島ガス株式会社原爆犠牲者追悼之碑   |
| 52 広島県農業会原爆物故者慰霊碑     | 53 毛髪碑              | 54 被爆動員学徒慰霊 慈母観音像      |
| 55 世界のこどもの平和像         | 56 平和記念ポスト          | 57 平和の池                |
| 58 「平和の祈り」句碑          | 59 ローマ法王平和アピール碑     | 60 ノーマン・カズンズ氏記念碑       |
| 61 平和の門               | 62 原爆ドーム            |                        |

平成27年度親子ひろしま訪問団  
訪問の記録

編集発行 秦野市暮らし安心部市民自治振興課  
〒257-8501 秦野市桜町1-3-2  
TEL 0463-82-5118

平成27(2015)年10月